

藝文だより

第43号

令和8年3月15日
村山市芸術文化協議会
題字／齋藤 湖舟



発想が広がる見事な出来映え こども生け花体験教室作品

伝統芸術文化をつなぐこと

村山市芸術文化協議会会長 大場ひろみ



令和七年度
の村山市芸術
文化協議会の
芸術祭も十月
から十二月に

かけ無事終了いたしました。これも会場にお運びくださいました皆様のお陰と心よりお礼申し上げます。

昨年度は村山市芸術文化協議会発足六十周年でした。この機会にあたり過去十年間の記念誌を刊行しました。この記念誌を通して十四団体・二個人の活動を知っていただけるのではと期待しております。

さて、伝統芸術文化をこれからもつないでいくには、次世代を担う若い人を育てていくことが大切だと思います。そこで村山市華道連盟では、五年前から小学生を対象とした「こども生け花体験教室」を芸術祭に合わせ開催しております。この教室に参加され「いけばな」に興味を持たれるお子さんが一人でもいるならと思っ始めて始めました。花と触れ合った楽しい思い出が心の奥に残ればよいですし、そのまま練習を続けてお子さん

の心と体に「いけばな」が根付けば、こんなに嬉しいことはありません。「いけばな」を通して植物、自然、環境などに目がいき、先人の知恵、技も得られるのではないのでしょうか。

残念ながら様々な事情で途中でやめられる事があるかもしれません。でもその経験がいつの日か「いけばな」という形でなくとも、大きく花開いていくことを信じております。

伝統芸術文化は華道に限らず、昨日始めて今日出来上がるというものではありません。地味ですがひとつずつ積み重ねてつなげていければと思っております。



こども生け花体験教室

ありがとう!!

「フェブリエ」結成四十周年記念コンサート

村山混声合唱団「フェブリエ」 団長 布川和則

「えりさんを呼んでいただ
き、ありがとう」「合唱と朗
読のコラボに引き込まれた」
「朗読と合唱の素晴らしさが
胸を打った」「涙がこぼれた」
「朗読に鳥肌がたった」「えり
さんの技量、演技力の素晴ら
しさに重厚感のある歌声が合
わさり、印象深いステージ」
「胸が痛んだ」「えりさんの歌
声に力をもらった」「えりさ
ん、圧倒的な存在感です」「魅
了された」「えりさんワール
ドを堪能」…等々。(当日の
アンケートより)



第1ステージ

渡辺えりさんを迎えるの結
成四十周年記念コンサート
は、お陰様で素晴らしい感動



山に祈る

と素敵な余韻を残し、大成功
裏に終わりました。

指定席にしなかったことも
あり、開演二時間前からす
でにお客さんが並び始め、大行
列が出来ました。第一、第二
駐車場が満車になり、第三駐
車場にまで誘導することにな
りました。渡辺えりさんの人
気と知名度のすごさに、改め
て驚かされました。
一九八四年(昭和五九)に
村山市制施行三十周年記念の
「第九演奏会」があり、その
合唱参加者が集い、一九八五
年(昭和六十)に菅野年央氏
を常任指揮者に迎えて、「村

山混声合唱団」が立ち上がり
ました。

一九九〇年(平成二)には、
武蔵野音楽大学の故佐久間哲
也教授より「フェブリエ」の
名をいただき、村山混声合唱
団「フェブリエ」として活動
するようになりました。「フェ
ブリエ」とは、フランス語で
「二月」のことで、冬の厳し
い寒さに耐え研鑽を積み、
やがて暖かい春が訪れるとい
う意味が込められています。
「プロムナード」とは、菅
野先生が名づけました。肩の
凝らない、気軽に楽しんでも
らえる演奏会にしようという
想いがあります。

第一回のプロムナードコン
サートは、一九八七年(昭和
六二)でした。今年度は三十四
回目で、ついに結成四十周年
記念のコン
サートを開
催すること
ができました。
四十年間
の「感謝」の
気持ちをご
れまで応援
して下さい
た皆様、
どうしたら
十分お伝え



第2ステージ



渡辺えりさん
スペシャルステージ

することができるとか、団員
一同、二年前から計画を練っ
て、ようやく渾身の企画・演
出によるステージを創り上げ
ることが出来ました。

まずは、山形県が誇る劇作
家・演出家・俳優・歌手の渡
辺えりさんをお迎えし、「山
に祈る」の朗読をお願いしま
した。次に、北悠合唱団「フ
リージア」の賛助出演を得て、
重厚な男声四部合唱を響かせ
ることができました。

さらに、今年も第二ステ
ージで「一緒に歌いましょう」
の出演者を募集して、集まっ
た「コーラス二〇二五」の皆
さんと「村山市女声コーラス」
「むらやま少年少女合唱団ル
ミネア・クラルテ」の皆さん
も出演してください、ステ
ージを大いに盛り上げ、観客に
感動を与えてくれました。

今回のコンサートの成功
は、我々出演者の努力だけで
は成し得ませんでした。練習
場所の提供やコンサートの全
面的な支援をして下さる市当
局や関係機関の皆様、いつも



第2ステージ

温かく見守り応援してくれる
家族、協力を惜しまず支えて
くれる社会音楽連盟の仲間達
のお陰です。感謝申し上げます。
「四十にして惑わず」、四十
歳になった村山混声合唱団
「フェブリエ」は、我々らし
い活動をこれからも続けて行
きます。自分たちが合唱を楽
しむだけでなく、青少年の音
楽育成を目指して、「むらや
ま少年少女合唱団ルミネア・
クラルテ」への支援を続け、
社会貢献として東日本震災
以来続けているコンサートの
収益金の一部を、「愛の事業
団」へ寄付させて頂きます。
さらに、バラまつりの出前コ
ンサートや山響ユアタウンコ
ンサート出演等、歌声で皆さ
んに元気を届けるイベントに
進んで参加していきたいと考
えています。

バリアフリーのびのび文化教室 四年目の取り組みを紹介

市子育て支援課と芸文協の

共催事業として開催している「バリアフリーのびのび文化教室」は、今年度で四年目を迎えました。芸文協では昨年度まで七団体に協力をいただいています。今年度も村山市茶道連盟と北村山吹奏楽団の二団体に協力をいただき、「動」と「静」の両方の内容で教室を開催することができました。子どもたちは親子で参加し、文化体験や参加者同士の交流を楽しみました。



「茶道体験」親子で楽しくお茶会

茶道教室

茶道教室では、「茶道体験」を十一月八日（土）に甌葉ブラザを会場に行いました。村山市茶道連盟の会員がお茶の先生を務め、親子で初めての茶道を体験しました。最初にお茶席の作法や楽しむための心得を教えてもらい、その後自分でお茶を点て、抹茶を味わいました。また、お茶を点てる前にはお菓子をいただき、緊張しながらもみんな笑顔で楽しんでいました。日本の伝統文化を身近に体験することができ、茶道の作法や受け継がれてきた思いなどを感ずることができた貴重な時間となりました。

音楽教室

音楽教室では、「北村山吹奏楽団年越しミニコンサート」を十二月二十七日（土）に市民会館小ホールで行いました。北村山吹奏楽団のメンバーが演奏を行い、あえてステージは使用しないでフロアに椅子を並べて演奏を行うことで、参加者はより身近に音



「年越しミニコンサート」音楽を身近に感じて

楽を感じることができました。また、演目に演奏に参加できる楽曲を入れ、実際にマラカスやタンバリンを持って一緒に演奏するなど、会場内は終始暖かい雰囲気にも包まれコンサートは進んでいきました。知っている曲もたくさんあり、いろいろなジャンルの演奏に笑顔があふれる素敵な音楽会になりました。

芸文協では未来に繋がる芸術文化振興の取組みとして、今後も引き続き協力していく方向で検討をしています。今後の活動にも是非ご注目ください。

芸文協六十周年記念誌を刊行

村山市芸術文化協議会は令和六年度に設立六十周年を迎え、それを記念して令和七年九月に記念誌を刊行しました。記念誌の刊行は、前回の五十年以来十年ぶりとなります。刊行に向けて、令和六年度から準備を進め、その年の八月に各団体から選出された委員で刊行委員会を立ち上げ、刊行委員長に伊藤大藏前芸文協会長を選出し、刊行方針等を決定しました。

今回の記念誌は、この十年

を凝縮し見やすく、読みやすいものをつくることで一致し、青柳孝雄編集委員長を中心に

編集委員会を重ね、編集作業にあたりました。

記念誌には、各加盟団体の活動内容や歩み、今後を見据えた展望を掲載しています。また、『写真で振り返る十年』では、むらやまの芸術の秋・文化の秋を彩った芸術祭の様子をシンボル事業を中心に写真で紹介するなど、前回の発行以降の十年を振り返り、これまで歩んできた確かな足跡を感じられる一冊となっています。

このほか、令和六年度に名誉市民の称号を授与されたお二人を関係団体で紹介しています。さらに、芸文協の活動の歩みを記した年表、歴代の芸術文化功労者名簿、歴代の三役名簿などを掲載しています。

完成した記念誌は、会員の皆様や一般の方に頒布したほか、近隣の図書館や芸術文化団体等に謹呈しています。この度の発刊で、より多くの皆さんに本協議会の活動や歩みを知っていただく良い機会になりました。



完成した芸文協60周年記念誌

第61回

村山市

芸術祭

会期 令和七年十月十五日〜十二月十三日



村山市華道連盟 市内5流派が一堂に会し華麗に彩るいけ花展



北村山吹奏楽団 山形交響楽団フルート・ピッコロ奏者をお迎えして秋のコンサート



村山市書道会 各流派の特長を生かし創造性豊かな書道展



開幕式アトラクション 杉島諏訪太鼓保存会「花笠太鼓」披露



からす笑劇場「魔坂・真逆・まさか」



会場と一体となって盛り上がるSKIPスーパーライブ



村山市美術連盟 表現の幅が広がった美術展



村山市大正琴連盟 美しい音色が響き渡る 大正琴の調べ



村山市書道会 工夫を凝らした作品が並ぶ書の色紙展



村山市茶道連盟 芸術祭表千家茶会



楽しい時間を過ごして出来た素敵な展示会



自慢の作品が一堂に集まるさつき盆栽展

第六十一回村山市芸術祭は、十月十五日の『真美展・こども県展 村山巡回展』を皮切りに、十二月十三日の『SKIPスーパライブ2025』までの約二か月にわたり、村山市民会館を主会場に開催されました。各団体や個人の皆さんが、一年間積み重ねてきた成果を披露し、芸術の秋・文化の秋を彩りました。また、期間中は大勢のお客様からお越しいただいて大盛況のうちに閉幕することができました。

芸術祭の様子を写真で紹介しします。

カラオケで村山市を元気に

村山カラオケ愛好会 石井雅孝

村山カラオケ愛好会には、三つグループがあります。カラオケクラブ（十八歳以上）、カラオケサロン（六十歳以上）、そして笛田カラオケ会です。私たちの活動は、月に二〜三回の例会、カラオケイベントの企画・運営・出演、そして会員の一年に一度の発表の場である「カラオケフェスティバル」カラオケで町を元気にする」です。「カラオケフェスティバル」は、ただ「歌えばいい」という場ではありません。選んだ曲には、出演者一人一人の思



いが詰まっています。このフェスティバルでは、その一人一人の思いを観客の皆さんに伝えることが目標でした。終了後、多くの方から感想をいただきました。「いろいろな曲を聴くことができて楽しかった。」「出演者一人一人の思いが伝わってきました。」「四時間の長い時間だったので、「飽きて帰る人はいないだろうか。」心配なことはたくさんありましたが、素敵な感想をいただきましたほっとしています。

村山カラオケ愛好会のスローガンは、「カラオケで町を元気にする」です。今年度も村山市を元気にするために、様々なカラオケイベントに關わってきました。六月「村山市バラまつりのカラオケフェスティバル」八月「徳内まつりのカラオケフェスティバル」十月「リンクむらやまのアニソンカラオケまつり」一般の方にもたくさん参加していただきました。今年も村山市を元気にするためにがんばりたいと思います。

公演を終えて...

劇団赤ひげ 五十嵐祐子



音楽が鳴り、ステージの幕が上がると私が一番ドキドキする大好きな瞬間です。劇団赤ひげには十代〜六十代が在籍しており、子育てや仕事に追われながらも、限られた時間の中で稽古を重ね本番を迎えます。今回上演した『湯けむりの向こうに』は山口県の高校演劇作品として執筆された脚本であり、「温泉で町おこし」をキーワードに物語が展開し

ていきます。過疎化が進む小さな町を舞台に、登場人物それぞれが抱く想いが交差していき、東京から来た温泉ライターの一言をきっかけに和解へと進展するところでステージの幕が下りる。今回も団員同士が本番直前まで意見を交わして作り上げた作品でした。そんな私たちの舞台を温かい拍手で包んでくれるお客様の中にはいつもありがとうございます、感謝しています。「演劇で町おこし」とまではいきませんが、皆様の心に響く舞台を作り続けていきますので、今後とも応援して頂けたら幸いです。

初舞台を踏めました

日本舞踊若三会 永澤朋子

会員減少、お稽古を続ける人数も減少し、単独での発表会を数年できずにおりました。今年度の芸術祭で正徳会さんの「津軽三味線民謡舞踊フェスティバル」に三曲出演させていただきました。中でもお稽古を始めたばかりの幼稚園の子どもが二人いましたので、初舞台を踏ませ

ていただくことができ、本当に感謝の思いでいっぱいです。いつものお稽古とは違う場所で、お化粧に髪型、本番用の華やかなお着物、どれも子どもたちにはとても新鮮だったようです。舞台後、とても楽しかったとニコニコと話してくれました。普段も和やかに、楽しく

お稽古をしています。やはりお客様の前で緊張しながらも、自分の踊りを披露するというのはとても大切な経験になったのではないかと思います。今後もしっかりと気持ちを持って、子どもも大人も益々精進していきたいと思っております。



人との出会いもまた楽し

村山フォトクラブ 堀 澄雄

数年前、「気軽にフォト散歩」に参加しました。当日は、天気にも恵まれ、市民会館から市のバスで移動し小松沢観音・馬場の天神様を撮影して廻り、お昼はおいしい蕎麦を頂きました。

午後は愛宕神社から歩き、楯岡の街並みを撮影しました。普段地元を歩いてまわる事なんてない、お祭りの時くらいかな？、昔ここに大きな建物がありました。今は公園になっており、しばし足を止め

昔の事を思い出しました。一時間くらい歩いたのだろうか、終点のリンクむらやまにたどり着きました。近所に住んでいます。初めて入りました。館内を見学し終わったところで、市民会館に戻り各人の成果をプロジェクトで写し、講評を受け全日程を終了しました。

この日の参加者に同級生がいたり、以前そば花まつりのモデルになってくれた人が今度はカメラ片手に参加してい

たり、いろんな人と出会えて楽しい一日でした。



ガイドの説明を聞く参加者

情熱は色褪せずー正徳会の活動と願い

三味線民謡正徳会 三山 徳 邑

月日が経つのは早いもので、私が「正徳会」に入会してから、二十年の節目を迎えようとしています。津軽三味線は、叩きつけるような激しい打楽器の側面を持つ一方で、糸を「はじく」「する」といった技法により繊細な情景を響かせる極めて表現豊かな楽器です。弾き手によって全く異なる音色を奏でるその奥深さに魅せられ、門を叩いた日の情熱は、今なお色褪せることはありません。

琢磨しながら、技術の向上を図っております。例年、春から秋にかけて、日本民謡協会などが主催する県大会や東北大会、さらには全国大会へ唄や三味線で出場し、個人・団体ともに日頃の研鑽の成果を披露してまいりました。

去る六月には所沢マーカーホールにて開催された貢正会の発表会に参加いたしました。門下生が一堂に会して奏でる大合奏は、まさに圧巻の一言に尽きます。また、十一月九日の村山市芸術祭における「津軽三味線・民謡・舞踊フェスティバル」では、出演団体も昨年より増え、おかげさまで盛況を博しました。次年度はさらにお客様に足を運んでいただき、心から楽しめる演目を構成したいと考えております。

この他にも、地域自治体の行事や施設への慰問など、規模を問わずに活動しております。伝統の「心」を次代へ繋ぎ、皆さまと活力を分かち合える場を創っていきたく思います。

芸術文化功労者を表彰



10月24日の村山市芸術祭開幕式の席上、令和7年度芸術文化功労者7名が表彰されました。本市の芸術文化の振興に貢献された皆さんに賞状と記念品が贈られました。誠にありがとうございます。(於 市民会館)

【功労章】

- 伊藤 大藏 (楯岡・社会音楽連盟)
- 井上 歩 (西郷・杉島諏訪太鼓保存会)

【栄光章】

- 矢萩 厚 (西郷・美術連盟)
- = 第80回山形県総合美術展 記念展賞
- 笹原 美楓 (戸沢・書道会)
- = 第41回読売書法展 読売俊英賞
- 鈴木 照山 (大倉・書道会)
- = 第31回山形県民ふれあい書道展 米沢市長賞
- 後藤 梅葉 (富本・書道会)
- = 第50回記念山形県総合書道展 山形県教育委員会賞
- 伊藤みゆき (楯岡・カラオケ愛好会)
- = 令和7年開催YTS歌うまコンテスト 優勝



フェスティバル大合奏

本会は年間を通じて各教室で稽古に励んでおり、初心者から師範代までが互いに切磋

村川千秋先生を偲ぶ

伊藤 大藏

山形交響楽団創立名誉指揮者として多大な功績を残された村川千秋先生が昨年六月に逝去されました。千秋先生は、小中高を通して先輩にあたり、「村川千秋後援会」に所属していたこともあって、よく面倒をみてもらいました。山形の自宅を訪問したこともあり

なご様子でした（写真）。それから約一ヶ月で急逝されたわけですが、村山市名誉市民など数々の榮譽に浴され、意欲深い音楽人生だったと思います。八月の音楽仲間による追悼音楽会では小動物が出てくる「村川千秋の子守歌」を聴きながら先生の人柄を偲びました。

昨年五月の山響ユアタウンコンサート村山公演が最後の指揮になりましたが、お元気

また、十一月の山形市民会館での追悼コンサートでは、満員の聴衆の中で先生が最も

注目!

村山市美術連盟 山口貴利さん

ちょっとおこがましくて恥ずかしいのですが、実はこの町を楽しみたい町にしたいと思っています。村山市に移住し四年、知り合いもいなかったこの町で、芸文協に入れていただけたことをとても嬉しく感じています。

楯岡北町のハリス食堂裏の借家をアトリエにして生活しており、時々、美術連盟会長がコーヒーを飲みに来ます。新作のアイデアを見ていただ

きながら、コーヒーの香りに包まれる豊潤な時間です。

以前、ニューヨークを訪れた石原慎太郎前都知事がアートの自由さに惹きつけられたエピソードを聞いたことがあります。「俺も自由に暮らしたいなあ。」

アート、芸術がみんなの憧れという自負を抱き、明るく夢を持って活動していきたいと思えます。

「裏ノアトリエニ居リマス」



力を注いだシベリウスの「フィンランディア」が映像と共に演奏され、目頭を押さえながらお聴きしました。「すべての子供たちに生の音楽を」という千秋先生の初期の目標は、しっかり山形に根付き今後とも私たちに示唆を与えてくれることでしょうか。ご冥福をお祈りいたします。



令和七年度 村山市芸文協のつぎ

4・8	会計監査
4・22	三役幹事会
5・1	理事会
5・9	県芸文協常任理事会
5・18	山形交響楽団 ユアタウンコンサート村山公演（後援）
5・23	総会
5・24	県芸文協会通常総会
7・23	市町村芸術文化団体会長会議
9・2	三役幹事会
9・15	芸文協60周年記念誌刊行
10・1	芸術文化功労者選考委員会
10・15	県美展こども県展村山巡回展
10・24	村山市芸術祭開幕式・功労者表彰式
11・8	バリアフリーのびのび文化教室（茶道体験教室）
12・15	芸文だより編集委員会
12・27	バリアフリーのびのび文化教室（吹奏楽ミニコンサート）
1・15	北村山地区芸文協地域懇談会
2・16	芸文だより編集委員会
2・28	三役幹事会
3・2	理事会

あとがき

ある日、カメラ店に入りコンパクトカメラを見てみると、以前に比べ展示数が少ないので、店員にきいてみると売れ行きが芳しくない、メーカーでは注文を停止しているとのことでした。後日再度きいてみると注文しても三ヶ月待ちとのことでした。

写真を撮る人はいるのに、ほとんどの人はスマホで撮っております。データで保存しておくだけだから十分なのかもしませんが、ちょっと寂しい気がします。

（編集委員長 堀 澄雄）

芸文だより編集委員

- 堀 澄雄 (村山フォトクラブ)
- 三山 徳珠 (三味線民謡正徳会)
- 永澤 朋子 (日本舞踊若二三会)
- 五十嵐 祐子 (劇団赤ひげ)
- 石井 雅孝 (村山カラオケ愛好会)